

災害環境研究プログラム 環境回復研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○災害環境の評価とその回復に必要な技術や評価方法の開発・実用化において、社会に還元できる顕著な成果を上げつつ、学術的にも貢献している。技術・システム・手法として体系化されるとよい。 ○中間貯蔵・環境安全事業など、行政との連携により研究成果の活用を進めている点も評価できる。 ○福島支部がよく機能しており、大規模森林火災の環境影響など新たに発生した問題にも取り組んでいる。 |
|---|

今後への期待など

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、行政・社会に対して適時の科学的エビデンスの提供を期待する。 ○DNA 損傷リスク評価や鳥類調査は被災地で実施した重要な成果である。今後、因果関係を明確にされることを期待する。 |
|--|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①研究の進捗ならびに行政との連携について評価いただきありがとうございます。中間貯蔵施設に係る取り組みについては、環境省や JESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)と密接に連携し、実際の作業において成果が活用されることを前提に進められており、十分な貢献が果たされつつあると考えております。今後、総合的な解析にも取り組み、その成果をもって学術のみならず社会への還元を図っていく所存です。 ②喫緊の課題である放射性物質を含む廃棄物の処理、貯蔵技術につきましては、既にいくつか利活用がなされており、例えば固型化の技術は福島県内の指定廃棄物処分に、吸着や溶出の研究成果は、東日本全域の特定一般廃棄物の最終処分に、焼却プロセスについては、仮設焼却炉や一般廃棄物焼却施設での運転における基礎的知見として、中間貯蔵に関する研究成果は、JESCO と情報共有し、現在の施設整備要件の一部として、それぞれ適用されております。今後もより一層の研究の充実化を図り、ご期待に沿えるよう鋭意努めます。 ③DNA 変異蓄積リスクにつきましては、野生生物への影響を正確に見積もるためのデータの蓄積を進め、より正確なリスク評価に繋がるように努めます。 ④鳥類調査については事実の記載にとどまらず、ご指摘の通りその要因についての解明を一層進めていくよう努めます。 |
|--|